

創業35周年記念の会 ご挨拶 (スピーチ用原稿)

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

○ 始めに、ご来社への御礼

本日はお忙しい中、「アイヴィス創業35周年記念の会」にご臨席賜り、誠に有難うございます。

皆様から頂いた長年のご支援ご指導により、弊社はここに創業35周年を迎えることが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

○ 35周年の話、創業当時順調に拡大、苦境を基盤に救われ事業再拡大

当社の創業は88年、バブルの絶頂期で蒲田の街の灯は夜中まで明るいつ、深夜作業でサウナかカプセルに泊まって朝は6時出社、そんな毎日でした。ただ、技術には絶対の自信がありました。トヨタでしごかれたからです。トヨタで学んだ先端技術、自由曲面処理や3次元CAD/CAMは成長期、三菱電機のMELCADや東レのアパレルCAD、日産ホンダの専用CAD、30億円を投じたHigh-endのユニクスCAD/EUSまで、多くのCAD/CAMを造りました。しかし、先端が先進になり、普及成熟期に入るとベンダーは集約され、開発はサービスに変わり、開発の仕事が減り、社内失業が増えて行きました。この苦境を救ってくれたのは、

CADの開発環境に過ぎないと思っていたUNIX環境です。

UNIXとそのネットワークが新時代の共通な開発環境になっており、

この技術を専門に変え、ビジネス系のシステム開発業務を開拓したのです。それがWindows、インターネットの時代を経て当社の事業基盤ができました。平成の前半が大きなITの変革と成長の時代であったことが幸いしました。

○ ITサービスの動向、データの時代の意味を知る。AIが時代の最先端に

「データの時代」、自分にはその意味が解らず、長い間馴染めませんでした。それが今漸く解りました。

「データ」はChatGPT、生成AIのあの賢さの源泉なのです。

データから学習出来る仕組みがあれば、30年50年学び続けた専門家よりも賢く、世界で起こる状況変化を理解し、予測し、質問に答えてくれます。

経験を活かして書いた論理的なプログラムより、

学習するAIとビッグデータの方が有能で賢いということなのです。

何年先のことか解らぬが、普通のSEは不要になるのかもしれない。

AIの先進性ですが、ITサービスの根幹を揺るがす変化が起きているのです。

○ **当社の現状と未来、 当社の牽引車として先端技術、その成果と将来性**
 2013年、当社も新組織を編成、AIを軸に先端技術と取組み始めました。同時に専門性の高い新人を計画的に採用、大手企業のAI研究者も参加、先進技術分野のサービスを中心に技術導入と人材育成を図って来ました。今は、東京の月島に100名、全国に150名超の先進技術者がおり、現在担当中の国の大型委託研究案件が2件、お客様の研究開発支援や顧客課題のPOC案件を試作評価、新技術実用化へのソフト開発など、実践的な課題を通して学んでいます。

変革の時代に適応すべく、先進技術を前面に出し社内改革も進めています。20年4月にZINTデータ様の先進技術部門と資本業務提携を実現、この5月には、トヨタシステムズとBIPROGY様とも資本提携を結びました。大きな信用に繋がる3社との資本提携の背景にも、先進技術があります。当社の成長を実際に支えているのは、技術と実績、安定顧客基盤を持つ、平均年齢33歳、550名超の顧客対応の技術者達、彼らの努力と責任感です。先進技術部門と顧客対応のこの実業を旨とするITサービス部門が、協力して未来を拓くのが今後の当社の理想形です。

○ **未来に向けて、 ITに対する社会環境は追い風、新たな成長へ舵を切る**
 来期から新基盤整備3年計画が始まります。新人を加え来期在籍技術者は800名超、売上を70億円の大台に乗せたい。3年計画が終わる27年3月期には、技術者1000名超、売上100億、利益6億円の達成を目標としています。大阪名古屋東京の3拠点軸に、本格的な技術研究開発センターを加えてその先の成長を目指して行きます。ITを取巻く環境も良く、創業35周年を機に、新たな成長へ舵を切ります。ご列席に皆さまには、今後ともご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

○ **おわりの挨拶 .. 感謝と懇親の場、お楽しみ下さい。感謝と御礼**
 本日はお世話になった関係者の皆様への感謝の集いでもあります。バイオリン・ピアノコンサートとささやかな立食パーティを用意しました。お寛ぎ頂き、ご歓談頂ければ、幸いに存じます。

35年の折々の節目でお世話になった皆様に感謝しつつ私の挨拶と致します。

《終わり》